

常願寺川・神通川・庄川及び小矢部川流域治水プロジェクト協議会に関して、令和3年度取組内容と今後の取組方針について共有を図るため、富山県内の関係機関を対象に勉強会を実施しました。

・ 会議名 : 常願寺川・神通川・庄川及び小矢部川流域治水プロジェクト協議会 勉強会

・ 日 時 : 令和3年12月23日(木) 13:10~16:30

・ 場 所 : 富山河川国道事務所(3F大会議室) またはテレビ会議

・ 内 容 : 勉強会 流域治水の骨子(案)の提案

全国の流域治水の取り組み紹介

意見照会

現地見学会 地域と連携した水田貯留施設の整備(北陸農政局、富山県農林水産部)

松川雨水貯留施設整備事業(富山市上下水道局)

富岩運河環水公園(富山県土木部)

・ 参加機関: 富山県内の関係機関(21機関29名)



勉強会の様子



事務局からの説明



意見交換の状況



現地見学会の様子
(富岩運河環水公園)

流域治水プロジェクト協議会勉強会の主な意見

- 3つのブロック検定会※¹で協議を進める提案がされたが、（流域を考慮して）影響ある範囲で集まって検討する方法は良いと思う
- ブロック分けは関連する河川に集中できるので良いと思う。河川管理部局のみでなく、農政、まちづくりなど他部局との連携が必要だとあらためて思った
- 田んぼダムを流域治水の根幹に据えようと、面積も大きく、農業従事者への理解も課題となる。治水に重きを置いた取り組み、保証なども出てくるので考えていかなければならない
- 田んぼダムは各個人の農家の取り組みとなる
- 森林の整備保全、土砂流出抑制の観点から優先度などを決め、調整の中で進めてきている。流域治水の観点からの優先性の考え方があれば示していただいて、調整の仕方を考えていきたい。河川敷伐採木のバイオマス資源化（グリーンインフラ）に関しても、地球環境保全の観点、脱炭素などの観点を踏まえると、取り込んでいけるような話と感じている
- 令和3年8月出水の際に事前放流を実施した。開始・終了のタイミングの取り決めなど今後整理して取り組んでいきたい
- 治水、利水、多目的ダムすべてを対象に協力していく方向性を確認した
- （立地適正化に関連して）居住の誘導、都市機能の誘導を進める。浸水や土砂災害などのリスクを踏まえたうえでの検討を進めていきたい

※¹小矢部川・庄川（富山県西部）ブロック検定会、庄川・神通川（岐阜県）ブロック検定会、神通川・常願寺川（富山県東部）ブロック検定会の3つを指す。詳細は第3回協議会の資料2-3を参照、※²勉強会後に実施した事後アンケートの内容も踏まえて事務局にてとりまとめ。括弧内は事務局が補足した内容